

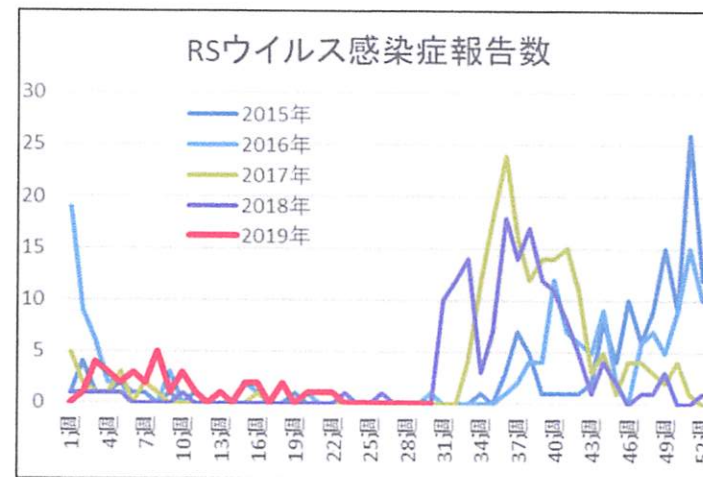
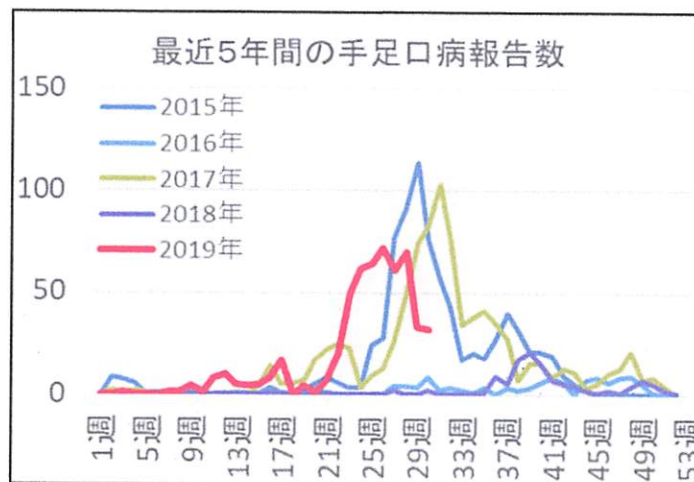
週間感染症情報

2019年30週 2019年7月22日より2019年7月28日まで

麻疹	
風疹	
水痘(みずぼうそう)	1
ムンプス(おたふくかぜ)	
百日咳	
溶連菌感染症	4
手足口病	32
ヘルパンギーナ	10
伝染性紅斑	
感染性胃腸炎	20
ロタウイルス(再掲)	
便アデノウイルス(再掲)	
突発性発疹	2
伝染性膿痂疹(とびひ)	7
ヘルペス性口内炎	
アデノウイルス感染症	4
RSウイルス感染症	
マイコプラズマ感染症	
ヒメタニューモウイルス	
インフルエンザ(臨床診断含む)	
インフルエンザA	
インフルエンザB	

夏休みに入りましたが、学童保育や部活など、多くの子どもたちは忙しいそうです。また、夏休みで、学校健診の診断結果をもって受診する児童生徒が増えています。手足口病・ヘルパンギーナなど、発熱・頭痛・発疹などの夏かぜと思われる疾患は減少しました。咳鼻汁のある、感冒症状の患者さんが増えてきました。

下の二つのグラフは、最近5年間の手足口病とRSウイルス感染症の報告数です。手足口病は、隔年で7月から8月にかけて、大きな流行をしています。RSウイルス感染症は、秋から冬にかけての病気でしたが、2017年2018年と8月より報告数が増加して、晩夏から秋にかけて流行する病気になっています。今年も、RSウイルス感染症が流行している地域もあり、今後注意していく必要があります。RSウイルスは生涯にわたって感染を繰り返します。年長児や成人は感冒症状で済みますが、乳児が罹患すると細気管支炎や肺炎を起こし入院が必要になる事があります。インフルエンザのような特別な治療法はありません。飛沫感染や接触感染で広がります。感冒症状があり乳児に接触する場合は、手洗いやマスクの着用など感染予防に努めて下さい。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> 変更になりました。)